



駒澤会だより

第27号

2017年7月24日

駒澤大学駒澤会発行



学長挨拶

学 長 長谷部 八朗

本年4月より新学長に就任しました長谷部八朗です。どうぞよろしくお願いたします。

早速のご報告ですが、去る5月、平成29年度駒澤会・委員総会が開催され、貴会名誉会長の池田魯参総長と共に、本年度新たに名誉副会長を拝命した私も臨席する機会に恵まれました。その際、駒澤大学130周年記念棟建設に向けた募金事業への多大の寄附が承認され、続く懇親会の席上で、その目録を森屋正治会長より賜りました。本学に寄せる貴会の厚く尊いお志に対し、衷心より御礼申し上げ、感謝の意を表する次第です。

さて、駒澤会発足のそもそもの起こりは、昭和46年3月、本学卒業生の保証人有志が、卒業式後の会合で、相互の親睦の維持と、在校生に対する奨学金制度を通じて大学発展に寄与せんとのお思いから「七一会」を結成されたことに遡ると側聞しております。そして同年10月、多くの関係者に呼びかけ、「七一会」を発展的に解消する形で、「駒澤会」の誕生をみたとのことです。爾来、奨学金制度確立を期して関係各位がその資金整備に奔走・尽力され、昭和57年4月より支給が開始されました。年間総額600万円が30人の学生に授与されたと聞きます。こうして始められた貴会の奨学金制度は、35年の歴史を刻み、今日に及んでいる訳ですが、この間、支給額の変動はあっても途切れること無く連綿と継続され、多くの学生が恩恵に浴することができました。発会当初の設立趣旨を堅持され、今に至った貴会の誠実な歩みは高く評価されるものであり、ここに改めて敬意を表したいと思えます。

およそ、大学を支えるステークホルダーには、同窓会・校友会、在校生の保護者・保証人の会、サークル団体の後援会、地域社会、企業等々、さまざまな形態が存在することは、周知の通りであります。その中において、貴会のように、在校生の保証人の皆様が、子女の卒業後も大学への組織的な支援活動を永続的に展開される例は、私自身、寡聞にして知りませんし、おそらく全国的にみても稀なケースと言えましょう。

駒澤大学といたしましては、今後、駒澤会と一層充実した交流を図り、相互のさらなる発展を期したいと念願しております。以上、本学に対する貴会の変わらぬご支援に御礼申し上げ、新学長および貴会名誉副会長就任のご挨拶に代えさせていただきます。



平成29年度 駒澤大学駒澤会委員総会報告

総務部副部長 吉田 洋一

平成29年5月20日(土)総会の日、天気予報では最高気温30度になるでしょうとの事。えっ未だ5月なのに? よって駅から会場の深沢キャンパスまで歩く予定を変更、初めて「等々力行」のバスで深沢キャンパス前迄行く事にした。会場は前回同様2階の講義室だったが、来るたびに感心するのが廊下の清潔さ。築10年程経つのに、塵一つ落ちていないし真新しい感じのまま。ふと、永平寺のあの磨き抜かれた廊下が想い出されたものである。床材は異なっても拭き清める心構えには通底するものがあるに違いない。気が引き締まった処で会場へ。総長(池田魯参)、新学長(長谷部八朗)両先生と正田賢司教育後援会新会長のご臨席を得、出席委員26名にて定刻に開会(司会進行は山田直重総務部長)が宣せられました。冒頭、大学総長で当会名誉会長の池田魯参先生より「齢を重ねることによって見えて来るものがある。益々のご活躍を。」とのお話があり、森屋会長からはこの一年の課題と成果について概略説明がありました。そのまま森屋会長が議長席に着き議事に入る。

第1号議案 平成28年度各部活動報告(総務部山田部長、広報部荒井部長、厚生部木村部長)

第2号議案 平成28年度決算及び基金管理状況報告(田中副会長)

第3号議案 会計監査報告(赤堀監査)

委員より奨学金支給額について、内容を再度吟味すべきではないかとの意見あり。

第4号議案 監査選任、総務部副部長を務めていた久野文代委員を新監査に選任、承認された。

第5号議案 大学記念棟建設基金への寄付金、1,000万円の拠出について承認された。

(総会後の懇親会時に森屋会長より長谷部学長へ目録が贈呈された)

第6号議案 平成29年度各部活動計画(総務部山田部長、広報部荒井部長、厚生部木村部長)

第7号議案 平成29年度予算案(田中副会長)

委員より入会案内発送等の勧誘方法について内容を吟味すべきとの意見あり。

第8号議案 (その他) 役員の任期について、昨年度総会で任期期間延長の意見があったが、役員会で審議した結果、現行規程で運営していくことを報告。

委員より「父母」という呼び方を、例えば「保護者」など別の呼び方にとの提案があり、役員会で審議することとなった。

報告事項 1 平成29年度年間行事予定(事務局)

2 入会者数及び奨学金について(事務局)

以上、各議案はすべて承認され、滞りなく閉会となりました。このあと、手入れの行き届いた「サツキの生け垣」を右手に見ながら懇親会々場(洋館小ホール)へ。





卒業式当日の勧誘

広報部部長 荒井 喜久子

平成29年3月23日・24日に駒澤大学学位記授与式（卒業式）が行われました。今年の卒業式も卒業生ご父母の方々へ入会勧誘活動を行いました。駒澤大学はキャンパス再開発により体育館が取り壊されたため、式典は記念講堂で行い、ご父母の方は1号館教場で式典のライブ中継を御覧いただきました。

当日「ご卒業おめでとうございます。駒澤会に入会をお願いします。」と声をかけました。通り過ぎ、戻って来てくださり、「駒澤会に入会します。」と言って入会案内を取りに来てくださる方もいました。「ご案内をして良かった。」と嬉しくなりました。駒澤会は駒澤大学卒業生を持つ親の会として、昭和46年の発足以来1100人を超える在校生に奨学金を給付して来たという歴史ある会です。「是非、駒澤大学とのご縁を継続していきましょう。」と声をかけ、頑張りました。

卒業式等々の入会勧誘活動を通して駒澤会の魅力を伝え、一人でも多くの方に入会いただけることを期待して、これからも勧誘を続けていこうと思いました。駒澤会の輪が今後益々大きくなりますように。





平成29年駒澤会新年賀詞交歓会報告

教育後援会副会長 平島 章

平成29年2月12日、恒例の駒澤会新年賀詞交歓会が渋谷の「セルリアンタワー東急ホテル」で開催されました。

駒澤会、同窓会、教育後援会が3本の柱となって駒澤大学の発展を支えていこうという主旨もあり、最近3つの会の交流も益々行われるようになって来ています。

今回の賀詞交歓会にも教育後援会から執行部全員が参加させて頂きました。

森屋正治駒澤会会長の開会のご挨拶から始まり、池田魯参駒澤会名誉会長、廣瀬良弘駒澤会名誉副会長のご挨拶に続き、大谷哲夫駒澤会元名誉会長の乾杯のご挨拶を経て楽しい懇親会に入りました。

私の会食テーブルには、教育後援会出身の方が複数いらっしゃいまして会話が盛り上がり、更に、きれいな夜景と美味しい料理とワインに囲まれ、楽しい一時を過ごさせて頂きました。

駒澤会の歴史の長さを感じると共に、駒澤会の皆様のお人柄の良さに随分甘えさせて頂きました。改めて御礼申し上げます。

今後も益々交流を深めさせて頂きたいと思っております。有難うございました。





駒澤会新年賀詞交歓会に参加して

厚生部委員 楠 有紀子

平成 29 年 2 月 12 日 日曜日、渋谷のセルリアンタワー東急ホテルにて「駒澤会 新年賀詞交歓会」がございました。

私は本年で 3 回目の参加ですが、池田魯参総長、廣瀬良弘学長をはじめとする駒澤大学当局皆様のお話しは威厳があり、思わず姿勢を正して講話を伺っているような気持ちになります。また、同窓会から萩野虔一会長、教育後援会から吉田稔会長はじめ役員の皆様に多く御出席いただきました。

乾杯の後は精進料理ならぬフランス料理ですが、まさに新春を飾るにふさわしい目にも美しいフルコースで、駒澤大学というご縁でお会い出来ました皆様と語りながら、毎年優雅なひと時を過ごさせていただいております。

世間では、東京オリンピックを目前に、世界中から日本の禅や仏教が注目されています。茶道、華道と並び「禅」も外国人へのおもてなしの一つとなりつつあります。

曹洞宗学寮を前身として 420 年余りの歴史のある駒澤大学に我が子が入学したというご縁が皆様とはございますが、子育ても一段落し肩の荷を少し降ろしたところで、駒澤会の仲間と一緒に「禅」や「仏教」の勉強を始めませんか？

駒澤大学は現在「禅」研究の学術的国際拠点づくりと、グローバル発信のためのブランド化事業を進めています。

未来ある大学、未来ある学生のためにご一緒出来ましたら幸いです。





平成29年度 初夏の親睦会にふれて

総務部委員 堀内 和代

6月10日（土）に私にとって3回目となる初夏の親睦会へ参加しました。

今年はJR 青梅線、小作駅に集合し、そこから車で10分程の西洋鉄板料理・土肥亭において昼食、その後自由参加となる御岳山の散策でした。

昼食会は、森屋会長のご挨拶から始まり、乾杯、歓談のうち会食へと進みました。

昼食で驚いたことは、目の前でシェフが魚介類、お肉、季節の野菜を焼いてくれるのですが、この技が本当にプロフェッショナルだったことです。特に感動したのが、フォークとナイフで殻付の海老を焼きながら、瞬時に殻をとっていき、この技の速さが素晴らしく、テレビでプロの技を目にしますが、目の前で焼いてくれプロの技を見るのは初めてで、驚きと感動で見入ってしまいました。もちろん味も素晴らしいものでした。

そして魚料理が感動もので、白身の魚を焼くのは一般的ですが、それを季節のフルーツとソースで供され、この魚とフルーツの組み合わせがマッチしていて、私は決して食通ではないものの、「美味とはこういう時に使う言葉かも！」と思い、周りの人も美味しいを連発していました。

鉄板料理後は、デザートをいただくテーブルへと1階から2階へ移動し、デザートを食べながら会話を楽しみ、三崎副会長から締めめの挨拶があって、その後全員が御岳山の散策に参加しました。

この御岳山は地図だと920mクラスの山で、ケーブルカーのある場所まではメンバーの車2台で移動、その移動の車の中の会話が、皆、各々脈絡なくおしゃべりをしていたのですが、よく聞いていると、好き勝手な会話がそれぞれ相手の事を気にかけているのがわかり、温かいものを感じて嬉しくなり、楽しく、よく笑いました。

ケーブルカーで上まで行き、更にリフトに乗り、産安社、夫婦杉、安産杉を見て来ました。

実は御岳山も初めて、リフトに乗るのも初めてで、少しドキドキしてリフトに乗りましたが、上に登った時の景色は素晴らしく、また土と緑の香りで、癒されました。

帰りは、御嶽山駅から電車ですが、この駅名の漢字表記が御岳山駅ではないことを初めて知りました。

今回も初めての経験が多くて、満足して帰路に着きました。毎回、楽しい企画を立てて下さっている厚生部の皆様、本当にありがとうございます。

そして駒澤会の発展へご尽力して頂いている諸先輩方々に感謝致します。





会員紹介 市川 よし子さん

今回は駒澤会監査としてご活躍されている市川よし子さんを紹介します。市川さんは平成16年に駒澤会へ入会、その後厚生部に所属し、平成26年から監査を勤めています。

一生まれは。

生まれたのは東京都日本橋です。その後、東京都内で育ち、現在も都内に在住しています。

一お子様は。

子供は二人います。上が長女で下が長男です。長男が駒澤大学に入学しました。大学在学中は教育後援会の委員、卒業後は駒澤会に入会して現在の御縁ができました。教育後援会委員の時も厚生部に所属し、4年生の時には厚生部部長も経験しました。

一趣味は。

大学の時に体育会スキー部に所属しており、以前にはスキーのインストラクターもしていました。

主人もスキーが趣味で、スキー連盟に所属している社会人クラブの主宰もしているので、冬は毎年忙しい状況です。

夏はゴルフとテニスを楽しみながらやっています。

一お仕事は。

主人が印刷会社の代表を務めており、私も協力して勤務しています。自分の仕事は経理、総務たまに営業と多岐にわたり、忙しい日々を送っています。

一生きてきて一番嬉しかったことは。

子供が生まれたときです。今は孫もいますが、嬉しかったのはやはり自分の子供が生まれたときです。孫を見るのは楽しみですが、「嬉しい」感情よりも「可愛い」感情の方が強いです。

一現在のライフスタイルは。

今は両親の介護と仕事とで忙しい毎日です。介護と仕事の両立で日々時間に追われ、大変なことも多いですが、今は可能な限り精一杯の事ができるよう努めています。

一駒澤会へ一言。

駒澤会に今後も貢献できれば幸いです。

監査に関しては仕事でも経理を担当しており、自分の経験を活かせられればと思います。これからもよろしくお願い致します。

インタビュー所感

監査としてご活躍いただいている市川さんは、物腰が柔らかく駒澤会をいつも温かく見守ってくださっています。人に対して優しくソフトながら、しっかり自分の意思を持っていらっしゃるため、駒澤会を賢明・堅実に運営いただいています。これからもその人柄で駒澤会を長年支えてくださることでしょう。



大学近況報告

～開校130周年記念棟建設中～

駒澤大学開校130周年記念棟は、平成30年4月の利用開始をめざし、順調に工事が進んでいます。この建物には、各種教場をはじめとしてさまざまな施設が入ります。

建物全体の通称名は、禅語の「耕雲種月（こううんしゅげつ）」から採り「種月館」です。「耕雲館」（禅文化歴史博物館）に隣り合う新棟に「種月」の名を冠することで、皆さまにあらためて本学の大学文化としての禅文化を受け止め、大いに学修・研究・業務に励む場としていただきたい、との意味を込めています。



イメージ図



工事現場写真（平成29年6月撮影）

～バリアンメディカルシステムズと放射線治療人材教育センターを設立

本学とバリアンメディカルシステムズ（以下、バリアン社）は、本学で日本初の試みとなる産学連携による放射線治療人材教育センターを設立します。

同センターは、本学の開校130周年棟「種月館」内に設置され、バリアン社製の医療用直線加速器（リニアック）「True Beam」、放射線治療計画システム「Eclipse」、放射線治療データ管理システム「ARIA」を導入・設置して、がん治療のための高度な放射線治療の実施を支援する医療従事者と学生のための教育コースを提供します。

～禅ブランディング事業～

本学は文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」タイプB（世界展開型）に選定されました。本事業は、全学的な看板となる研究を推進し、その成果をもって、大学の目指す将来展望に向けて独自色や魅力を発信する取り組みです。

本学が選定された事業は「『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業」で、事業期間は5年間（平成28年度～平成32年度）です。

―― 『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業 概要 ―――

現代社会が直面している「心の問題」に、禅（ZEN）の立場から提言を試みます。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、多様な専門領域と禅（ZEN）を融合した研究を行い、坐禅の身心への影響を科学的に検証します。さらに、全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信していきます。

基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

この度、基金管理委員会で慎重に審議した結果、野村証券において社債を三点購入したことをご報告いたします。平成29年1月に「株式会社みずほフィナンシャルグループ 第11回期限前償還条項付無担保社債（実質破綻時免除特約および劣後特約付）」、2月に「株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ 第14回期限前償還条項付無担保社債（実質破綻時免除特約および劣後特約付）」、6月に「株式会社みずほフィナンシャルグループ 第13回期限前償還条項付無担保社債（実質破綻時免除特約および劣後特約付）」を各1,000万円購入いたしました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	4月～7月までの利金	備考
野村証券	38,249円	みずほ・三菱UFJ社債
みずほ銀行	18,050円	定期預金利息
世田谷信用金庫	2,541円	定期預金利息
合計	58,840円	

基金管理委員長

駒澤会奨学金について

平成29年度、下記のとおり奨学金が支給されました。

支給金額 総額400万円（20万円×20人）

奨学金授与式 平成29年7月12日（水）

出席者 学長、駒澤会執行部

※詳細は駒澤会だより28号及び、駒澤会HPでお知らせいたします。

入会勧誘のお願い

駒澤会は学生への奨学金支給を継続するため、入会勧誘活動を継続しております。しかし、近年は入会者が減少し収支において支出超過が続いておりますため、ぜひ会員皆様にも勧誘活動のご協力をお願いいたします。お知り合いで駒澤会に入会をご希望される方がいらっしゃいましたら、駒澤会事務局までご一報をお願いいたします。

入会者芳名

駒澤会にご入会いただきまして感謝申し上げます。

ここにご入会いただいた皆様のご芳名を掲載いたします。

* 今回の発表は平成28年12月1日から平成29年6月末日までにご入会いただきました方を対象としております。

* 対象期間にご入会いただいた方のうち、本紙への掲載について、同意をいただいた方のみ掲載（不同意の方と連絡が取れなかった方は匿名）とさせていただきます。

秋元 幸美 様	天野 恒治 様	石井 あや 様
伊藤 ひろみ 様	遠藤 敏明 様	小島 晴治 様
小町 肇子 様	近藤 孝司 様	島倉 斉 様
須貝 玲子 様	高島 一広 様	長谷川 陽司 様
長谷部 八朗 様	福嶋 隆記 様	藤本 利彦 様
本馬 省三 様	横田 宏志 様	匿名 8人

駒澤大学 総長、学長、副学長 ご紹介

平成29年4月より、駒澤大学当局人事交代により、次の方々が就任されました。



池田 魯参総長《再任》
(駒澤会名誉会長)



長谷部 八朗学長《新任》
(駒澤会名誉副会長)



日笠 完治副学長《新任》



猿山 義広副学長《新任》

駒澤会参与 ご紹介



教育後援会会長
参与 正田 賢司

平成29年度も教育後援会の会長・副会長に参与をお務めいただきます。

更なる駒澤会の発展のため、若いお力を頂戴できればと思います。



教育後援会副会長
参与 松田 素子

編集後記

『再びの印度』

今回インド、ブッタガヤ（印度山日本寺）管主になられた、奈良東大寺長老様の晋山式に参列させて戴く事が叶い、うれしきでいっぱいだった。

世界遺産で有名な、大菩提寺での法要から、お練りと共に、日本寺までの、長い道のりをお坊様の行列を一目見ようと大勢の人達が集まっている。警護の兵隊、報道関係のカメラマン、沿道は祝う人達で埋めつくされた。

翌日、お釈迦様が修行された山の洞窟へ。

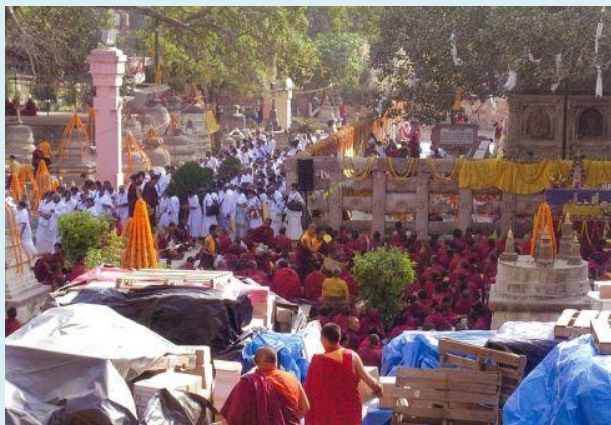
そこからみる山はお釈迦様が寝ているお姿のように見え、美しい光景が広がっていた。ブッタガヤ近くには、色々な国の寺があり、ブータン寺を訪れ、お祭りにも招待された。

旅好きな私は、どうしても一度行って見たいと思っていた所、聖なる地、インドガンジス川へ。うす暗い夜明前、でこぼこ道を歩き、道端で花とろうそくを案内人からもらい船に乗り込む。だんだん朝日が昇ってきて、まわりが明るくなった。

心は静かでおだやか、風は冷たく肌寒い。川の流りはゆるやかでいやされる。世界中からこのガンジスへ訪れる人達、身体を清める人、水をのむ人、とてもまねの出来ない光景だ。

ろうそくと花をそっと川に流し冥福を祈った。

(監査 赤堀 菊絵)



各部入部のお誘い

会員の皆様へ

会員の皆様に、各部への入部をお誘いしています。

会の運営を3つの部に分かれて担当して頂くこととなりますが、近郊の方又は遠方でも2～3カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。

皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局までご一報ください。

TEL : (03) 3418-9189 FAX : (03) 3418-9190

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所などを考え活動しています。

事務局からのお知らせ

大学行事予定

8月1日(火)～9月15日(金)
夏季休業期間
9月16日(土) 後期授業開始日
9月卒業式
10月15日(日) 第135回開校記念日
11月4日(土)～11月5日(日)
オータムフェスティバル

駒澤会行事予定

9月30日(土)～10月1日(日)
駒澤会秋の研修会
12月16日(土) 駒澤会忘年会
1月 3日(水) 箱根駅伝応援
2月12日(月) 駒澤会新年賀詞交歓会

駒澤会だより 第27号

発行日:平成29年7月24日
発行者:駒澤大学駒澤会 広報部
154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1
TEL:(03)3418-9189
FAX:(03)3418-9190

駒澤会ホームページ<駒澤大学HP内>

<https://www.komazawa-u.ac.jp>
→ 在校生父母の方をクリック
→ 駒澤会をクリック

